

顔の見える先生から、 ゲームを学ぼう。

ゲームトレは「楽しく脳を鍛える習い事」として、ゲームを推奨します。

日本初、ゲームのオンライン家庭教師『ゲームトレ』は「楽しく脳を鍛える習い事」です！
累計トレーニング回数は20,000回を突破！
ゲームトレは、これまでなかったゲームの習い事です
学校の部活でもeスポーツが広がってきました。
囲碁や将棋を習うように、ゲームを習う文化を作っています。
ゲームトレには全国大会、世界大会経験者など、
高い実力を持ったプロのゲームトレーナー※が在籍していますが、
ゲームトレは大会出場やプロゲーマーを目指すだけが目的ではなく、
ゲームを通じて脳を鍛えたり、コミュニケーション能力を高める教育プログラムです。
また、暴言やマナーについての指導などもあり、『オンラインゲームとの正しい付き合い方』を教えています。

- ・達成力
- ・やる気
- ・集中力
- ・考える力
- ・情報処理能力
- ・コミュニケーション能力



累計トレーニング回数

20,000 回突破!!

本格的なスキルアップからカジュアルなゲームまで、
ご利用いただける3つの理由

ゲームトレが「楽しく脳を鍛える習い事」になる3つの理由

あれから、2年半... 今、どうなってる？

脳と心を鍛える

「ゲーム脳」と言われたのは昔の話。
最近の研究では、ゲームを通じて集中力や情報処理能力など、脳の力が高まることが証明されています。
つまり、ゲームで頭が良くなるのです。
しかし、ゲームに偏見を持っている方はまだまだ多いです。ゲームトレは、その偏見を払拭できるよう努力してまいります。

ネットリテラシー・コミュニケーション能力の向上

ゲームトレでは、ゲームを通じてコミュニケーション能力を高めることができます。
トレーニングはビデオ電話を繋いで、トレーナーと会話をしながら、最大で子ども3人のグループになります。
グループでのトレーニングを通じて、年の近い同じゲームが好きな友達とも繋がれます。
また、暴言やマナーについての指導などもあり、『オンラインゲームとの正しい付き合い方』を教えています。

笑顔と自己肯定感を得る

ゲームトレの生徒の中には不登校のお子さんも多くいらっしゃいます。
不登校になると、人との会話が減り、どんどん内向的になっていく傾向があります。

まずは、好きなことで笑顔になる。
笑顔になることで、「やる気スイッチ」ともなるドーパミンが分泌され、気持ちがポジティブに。
そして、「ゲームが強くなる = 好きなことで達成感を得る」ことで、自己肯定感が高まっていきます。

ゲームトレが目指しているもの

eスポーツは世界中で盛り上がり、ゲームトレはプロゲーマーの育成が目的ではありません。
ゲームを活用し、子どもの教育につなげたいと考えています。

**実はゲームをすると
頭が良くなるってご存知ですか？**

囲碁や将棋と同じ

他のもので置き換えてみると

囲碁や将棋をやっている人って
頭が良くなりそうですね。

ゲームも同じと考えてもらえれば
感覚的にもわかりやすいと思います。

**注：この取り組みを推奨する（勧める）ものではありません。
この夏、ゲームとの付き合い方を考えるヒントとして。**

とある、未来 ～それでもあなたは、ゲームをしますか？～

20xx年、日本政府が“世界一”を謳（うた）って作り上げたAIが、ある判断をした。

「これからの日本人に必要な力を、最も効率的に育てるのは、ゲームと動画だ。」

このAIの判断に基づき、文部科学省は廃止。新たに「ゲーム省」が立ち上げられ、学習指導要領に代わるあたらしい義務教育の教育内容が定められた。

これまで、国語とか、数学とか呼ばれていた教科は、「RPG（ロールプレイング）」「アクション」「アドベンチャー」「シュミレーション」「レース」「リズム」「ステトラジー（戦略）」それと、「動画（動画作成・動画視聴）」に置き換わった。

今、僕たちは登校すると、1時間目RPG、2時間目シュミレーション、3時間目レース…。机に設置されたディスプレイに向かって、時間割に従い、様々なゲームをこなす。僕は、進行がゆっくり目のRPG系には自信があるが、スピードと臨機応変さが求められるレースやアクション系は苦手だ。

学校が終わると、すぐ家に帰り、宿題をする。昨日、母が本屋に寄って、参考書コーナーで買ってきた「マリオカート ツアー」の攻略本が役に立つ。攻略本をもとに、コース分析、最適な位置取りや相手との駆け引きを考えておかなければならない。「せっかく攻略本を買ってあげたのに…」。今日中に第5レースまで攻略できていないと、また、親の小言を聞かなければならない。

親は、僕が友達と約束してコンビニに出かけようとする時、「先にゲームをしてから行きなさい。」といつも言う。「寸暇を惜しんでゲームしないと、あなたの将来にかかわるのよ…」。

授業の終わりに「チェックしておきなさい」と言われたT i k t o kやY o u t u b eの動画も、忘れずに見ておかないといけな。もし見逃してしまったら「宿題未視聴」で居残りだ。

他事を考えながらゲームしていると、よくケアレスミスをする。こんなことではいけない。期末テストも近づいているのに…。

…そんなこんなで、宿題をこなすのに毎日4時間以上かかる。最近開発された超高性能目薬のおかげで、何時間画面を眺めていても、視力が低下することはなくなったが、苦手なゲームに取り組み始めると、すぐ休憩したくなる。

ぼくも来年は高校受験だ。親は、ぼくが苦手なゲームをクリアするために役立つような雑誌、また家庭教師や塾の紹介チラシを最近よく見ているようだ。あの愛情に満ちた、真剣な顔を見ていると、そのうち、うちにもアクションゲームあたりの家庭教師が来ることになりそうだ。

一昔前には、長い時間ケータイやPCを覗いていたら、親や先生に怒られたと聞く。また、学校が終わった後には、「部活」という、リアルで体を使う競技もしていたらしい。スポーツといえばe-Sportsしかない今の時代、すごく非効率なことをしていると思うが、話を聞くと、何か少しうらやましい。

そういえば、先日、学校をエスケープして、河原で「サッカー」なるものをしていた5人組が、校長室に呼び出されていたっけ。

昔のように、ネットを調べればすぐ出てくる知識を無理やり詰め込むような無駄な勉強はしなくてよくなった。

ゲームの中で、課題を攻略し目標を達成するために、なかまを作り、作戦を練って分担しながらクリアする力は、圧倒的についたと思う。みんなが、国が定めたゲームを、より早く、より確実にクリアするという目的を共有し、それに向かって一つの方向に進んでいる。

この方式を採用してから、世界規模の「学力テスト」(New PISA)でも、日本は断トツで1位だ。大人たちの「ほら、AIの言うとおりにしていけば、この国の未来は明るい」という安心した、希望に満ちた顔が目に見え、これでもいいのだ。僕は今日も、与えられたゲームに没頭していく…。

先日、ある文章を読みました。題は、「子どもが『動画・ゲーム嫌い』になる禁断の手段」。

そこには、「次の6つをやると、子どもは『ゲーム嫌い』『動画視聴嫌い』になっていきます。」と、その方法が紹介されていました。

<ゲーム、動画視聴が嫌いになる方法>

- (1) 毎日〇時間はゲーム（動画視聴）をするよう強要する。
- (2) 攻略本を買ってきて、それを読みなさいと指示する。
- (3) ゲームでミスをしたら指摘する。特にケアレスミスをしたら怒る。
- (4) 学校から帰ってきたら、まずはゲームをやるように命令する。
- (5) 定期的にゲームが成長しているかどうかテストする。
- (6) あまりにも上達しないときは、ゲームが上達するために家庭教師をつける。

この文書に刺激を受けて、上の文章を作ってみました。どうでしょう。

(1)～(6)を「勉強」に置き換えたら、学校や家庭が、今していることになりはしないか？それは、子どもの自由な発想を摘み、勉強嫌いを加速させることになるのではないかと思います。

教育の世界が、大きな転換期に来ていると言われます。今の枠組みを根本から見直し、本当に未来に生きる力を、一人ひとりの子どもたちにつけたいと思います。